

帰国準備と帰国後の教育

日本への帰国準備と帰国後の教育についての情報をお届けします。

海外の子どもたち：日本のどこへ帰るの？

海外から日本へ帰国する児童生徒は、日本のどの地域に、どれくらい的人数が帰っているのでしょうか？

文部科学省の学校基本調査のデータを元に、2008年度（2008年4月～2009年3月）の間に日本に帰国した、小学生から高校生までの帰国児童生徒数をまとめてみました。

その結果を、都道府県別（Top 10）と地域別の結果を、下の2つの表に示しました。

帰国児童生徒数：都道府県別 Top10（2008年度）

順位	総合	小学校	中学校	高等学校
1	東京 2,776	東京 1,473	東京 643	東京 660
2	神奈川 1,806	神奈川 1,060	神奈川 508	神奈川 238
3	愛知 1,231	愛知 736	愛知 337	愛知 158
4	千葉 994	千葉 622	千葉 239	千葉 133
5	静岡 550	兵庫 300	静岡 185	京都 131
6	埼玉 539	埼玉 293	兵庫 145	埼玉 121
7	兵庫 500	大阪 269	京都 138	大阪 108
8	大阪 481	栃木 122	埼玉 125	静岡 68
9	京都 364	茨城 118	大阪 110	茨城 62
10	茨城 234	福岡 115	広島 56	兵庫 55
全国合計	2008年度 11,678	6,597	3,065	2,016
	2007年度 10,978	6,401	2,841	1,766

帰国児童生徒数：地域別（2008年度）

地域	都道府県	総合数	割合
関東	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川	6675	57 %
東海 / 中部	岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀	2085	18 %
近畿	京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	1473	13 %
九州 / 沖縄	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	398	3 %
北陸 / 甲信越	新潟・富山・石川・福井・山梨・長野	350	3 %
北海道 / 東北	北海道・秋田・青森・岩手・宮城・山形・福島県	324	3 %
中国	鳥取・島根・岡山・広島・山口	294	3 %
四国	徳島・香川・愛媛・高知	79	1 %
合 計		11678	100 %

（注）帰国児童生徒数：海外に1年以上在留して2008年度間に帰国した者の数

出典：文部科学省「学校基本調査」(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>)

この表から、いくつか気のついた点をまとめてみます。

- 1, 東京・千葉に圧倒的な集中が見られる。
全国の帰国児童生徒の約4割を占めている。
- 2, 愛知が、総合・小・中・高全てで単独3位になっている。
- 3, 近畿で一番多い兵庫が総合で7位と順位が低い。
- 4, 地域別の総合数を比較すると：
関東が6割と突出している。
近畿より、東海 / 中部の方が多い
- 5, 2008年度は、前年度より、総合数で約6%の増加が見られる。

☆

「近畿より、東海 / 中部の方が帰国児童生徒が多い」

左の表を作成してみて、私が最も強く抱いた印象です。

関東への帰国児童生徒が圧倒的に多いのは、簡単に納得ができます。しかし、東海 / 中部が近畿より多いとは！

特に、愛知と静岡の合計（1781名）が、兵庫・大阪・京都の合計（1345名）より、約3割も多くなっているのは、驚きです。

帰国児童生徒数は、逆に東海・中部地区の方が約4割多くなっています。しかし、帰国生受入校（小学校・中学・高校・中等教育学校の計）は、東海・中部地区の82校に対して、近畿地区で129校で逆に5割多くなっています。

近畿の方が学校数が多いのに、帰国児童生徒数が少ない、のです。

このデータが示す1年間には、2008年9月にリーマン・ショックがあり、世界の経済が急激に冷え込んだ時期でした。そのため、自動車産業を中心とする東海中部から北米各地へ進出している企業が大急ぎで派遣社員の帰国を促したのが、帰国した子どもの増加の大きな理由の一つだと思われます。

実は、昨年本誌で掲載したように、「東海 / 中部が近畿より帰国生が多い」という傾向が出ていました。ですから、これは一時的な動向ではなく、今後も継続していくと思われます。（松本）